



とりの鳥はどうして飛べるの

たいじゅう かる 体重が軽いから

とりの鳥は、かなりおおがたの鳥でも、たいじゅうは少ないものです。にくしょくの鳥の中では、いちばん重たいといわれるコンドルでも、つばさをひらげた大きさは、3メートルもありますが、たいじゅうは、9～12キログラムしかありません。

とりの鳥のほねはたいてい細く、ふと太いほねは中の部分にあながあいた、くう空どうになっています。軽くてじょうぶな骨なのです。鳥が大きく見えるのは、ふっくらふくらんだうもう羽毛でぜんしん全身をおおわれているため、うもう羽毛をむしると、ほそ細いからだ体をしています。

うんちやおしっこも、からだ体にためない

た食べたえさも、できるだけはや早く、うんちにしてからだの外に出してしまいます。にんげん人間やイヌなどは、からだの中でできたいらぬものやすいぶん水分を、ぼうこうにためておいてから、おしっこにしてたいがい体外に出します。鳥は、たいじゅうを軽くするため、おしっこのすいぶん水分を体内にためるようなことはせず、うんちといっしょに、おしっこのせいぶん成分も出してしまいます。とりの鳥のふんの、白いぶぶん部分が、にんげん人間のおしっこにあたるものです。鳥は、と飛ぶために、できるかぎりたいじゅうを軽くするくふうをしています。

つよ強いつばさときんにく筋肉があるから

とりの鳥のつばさをささ支えるむね胸のきんにく筋肉やほね骨は、たいへんはったつ発達していて、つよ強くたくましくなっています。と飛ぶときにくうき空気がうまくなが流れるように、からだの表面の羽は、つるつる、すべすべして、からだぜんたい全体はスマートなりゅうせんけい流線型をしているものが多いのです。

そら空を飛びたくて、にんげん人間がつばさをつけてじっけん実験した例がたくさんありますが、とりの鳥のようにたいじゅうをささ支えられるむね胸のきんにく筋肉がなく、いつもしっぱい失敗しています。(監修・今泉 忠明)

